

1ST JAPAN SKI MOUNTAINEERING CHAMPIONSHIP 2005

4.16 [sat] - 17 [sun]



第1回山岳スキー競技日本選手権大会

(2006年 第3回山岳スキー競技世界選手権大会(イタリア開催)日本代表選手選考参考大会)

期日：2005年4月16(土)、17日(日)

会場：競技 長野県小谷村 柵池スキー場から白馬乗鞍岳周辺
※天候等の都合により変更もあります。

研究会 白馬村岩岳スキー場 ラ・モンターニュ・フルハタ
TEL：0261-72-2156 Email：21@hakuba.furuhata.com

参加方法：参加申し込みは、FAX、ホームページ、メールで行えます。(詳しくは裏面参照)

●参加予定者

ISMC (国際山岳スキー競技連盟) 役員と選手 一般参加：各県山岳連盟・山岳会、山スキークラブ、個人等、大会実施に関心のある方々 (自治体・スキー場・山岳団体関係者) 大韓山岳連盟、中国登山協会代表団、長野県山岳協会、日本山岳協会 国際部・山岳スキー競技研究会メンバー (約50名の参加を見込んでます)

主催：社団法人日本山岳協会 協力：長野県山岳協会 後援：白馬観光開発柵池ロープウェイ

協賛：(株)ゴールドウイン (株)カモシカスポーツ CUSTOM PRODUCE INC. (株)キャラバン (株)ロストアロー



※競技コースは、天候等の都合により変更もあります。



<http://www.jsmc.jp>

これからの日本の冬のスポーツシーンに新風を吹き込みます。

ヨーロッパアルプスで始まった山スキーを使った競技、山岳スキー競技が世界各地に広がり始めています。2004年3月にスペインで実施された第二回世界選手権では、ピレネー山脈のスキー場周辺に設定された5回の登り下りを含む水平移動距離 20km、累積標高差 2100m のコースで競技が行われました。通常の山スキーならば一日行程のこのコースを、世界のトップ選手はわずか2時間30分で走破します。日本を含む世界各国から237名の選手が集い、多くのスポンサーとボランティア、地元の町を挙げての協力で支えられ、成功裏に幕を閉じました。(大会の報告やビデオ映像は次のホームページでご覧になれます。http://www.jsmc.jp/ 月刊誌 山と溪谷 2004年6月号に報告が掲載されています。ご参照下さい)

同大会には日本以外にも韓国や中国、アメリカ、カナダなどから選手が招待され、日本をはじめ各国にもワールドカップの開催を打診する動きがありました。すでに昨季にアメリカ大会が催され、この9月にはアルゼンチンでインターナショナルオープンが開かれました。アジアでは韓国も強い興味を示しています。ISMC-国際連盟では近い将来オリンピック競技として採用されることを目標としています。

世界選手権を見てきた私たちは、山岳スキー競技の面白さを多くの方に知っていただき、日本国内にも本競技を普及させていきたいと考えています。日本には山岳スキー競技に適したフィールドが数多くあります。この競技の普及は、これからの日本の冬のスポーツシーンに新風を吹き込むことは間違いありません。さらに世界で活躍できる日本人選手を育成し、ワールドカップ日本大会を実現したいと考えています。その第一歩として、国際連盟からインストラクターと選手を招いて日本で最初の山岳スキー競技試技大会と競技研究会を実施します。競技をやってみたい方、みてみたい方、大会開催に関心のある方ぜひご参加下さい。

日程 第一日目 4月16日(土) 第二日目 4月17日(日) **競技種目**
 午前 予定地でのコース設定 午前 個人戦 競技
 午後 競技の概要と大会実施に関する講習 午後 次シーズン大会実施に向けての話し合い。
 ※国際連盟役員などが講習担当します。

個人戦 (Individual) 男子・女子のコースは梅池スキー場から白馬乗鞍岳周辺を予定していますが、地元関係者の方々と相談・調整の上最終決定します。天候により変更の可能性があります。

申込方法 FAX ... 申し込みフォームに記入して日本山岳協会までFAXしてください。
 大会ホームページ ... ホームページ左メニュー「『大会エントリ』」から行えます。 http://www.jsmc.jp/
 メール ... 事務局の澤田 (sawada@jsmc.jp) が怪生 (saso@jsmc.jp) 宛に下記申し込みフォームの内容をメールしてください。

参加費用 ● 競技参加 5,000円 ● 研究会参加のみ 1,000円 送金先 郵便振替 口座番号 00110-5-546693 (社) 日本山岳協会
 宿泊ご希望の方は参加申し込みの際に明記して下さい。宿泊は白馬村岩岳スキー場ラ・モンターニュ・フルハタとその周辺の宿になる予定です。
 宿泊費 (1泊2食付き 6,500円) は当日の徴収となります。

第一回山岳スキー競技日本選手権大会 大会ルール

競技内容 ... 実際の山岳地形を設定された、数回の登り下りを含むコースを、スキーを使って周回し、戻ってくるまでのタイムを競います。
コース ... 水平距離約14km、総標高差約1600mのコースで行います。(別紙参照。男子と女子でコースを分ける可能性もあります。) 競技コース上には適当な間隔で標識が設置してあるので、それを目安にコース取りをします。標識から逸脱したルートを取ってはいけません。登り下りの転換点にはスタッフが駐在しているので、そこでシールの着脱を行うこと。詳しくは大会当日の主催者の発表に従ってください。
計測 ... スタートは一斉スタートとし、コースを周回してゴール地点 (スタート地点と同じ予定) に到着するまでのタイムを計測します。
表彰 ... 男子、女子それぞれについて上位3人までを表彰します。なお今大会の成績は、2006年にトリノで行われる第3回世界選手権の日本代表選考の参考とします。また主催者の判断で特筆すべき成績を収めた選手に対し、特別賞等を授与することがあります。
ブリーフィング ... コース、スタート時間、レース中の持ち物、諸注意事項などくわしい事項は、レース前日に参加選手を集めた場で主催者から発表します。
装備チェック ... 主催者から発表された必須の装備は、すべて持ってレースに参加してください。雪崩ビーコンに関してはスタート前に全員送信チェックを行います。ゴール後に必須装備のチェックを行い、不備なもの1点につき3分のペナルティを課します。
競技中の諸注意 ... 競技途中で棄権する場合、近くのコース役員まで必ず申告したうえで、コースから離脱してください。
 ■ 事故・怪我が起こった場合、また事故を自撃した場合、近くのコース役員まで必ず申告してください。
 ■ 意図せずあるいは故意に、コースを著しく逸脱し、別の場所からコースに復帰してはいけません。コースを著しく逸脱したことに気づいた場合は、必ずゴール地点まで戻って、レースを再開してください。
 ■ 途中で用具を無くした場合、自分に不利であっても、必ず自己申告してください。
 ■ 自然環境に深刻なダメージを与える行為 (植物を傷つけるなど) をした選手は失格とします。
 ■ レースの進行、審判に異議のある場合、審判員に対し異議を申し立てることができます。ただしレース終了から15分以内でなければなりません。
悪天による変更 ... 大会当日の天候が大会運営に難しいと判断された場合は、コースを変更、縮小してレースを行う予定です。その判断は主催者が行います。
その他 ... その他競技ルールに関しては、ISMC®競技規約に準拠します。

装備 ... 今大会における装備は、以下の規定に従ってください。(ISMCの規定にほぼ準ずる)
 ■ スキー ... 長さが身長90%以上、少なくとも男子用は160cm、女子用は150cmあること。全長の9割以上の金属エッジが付いていること。足下部分で少なくとも60mmの幅があること。ビンディングは登降時、踵がはずれて動くものでなければならない。スキーリシューは出場者の責任において、装着されていてもいなくても良い。ビンディングは横方向と縦方向のリリース機能が付いていること。クロスカントリー用のビンディング、ブーツ、それらに類するものは固く禁じる。※ テレマークスキーでの参加は本来認められないが、今大会は順位に関係しないオープンでの参加を認める。
 ■ ブーツ ... ブーツはくるぶしを覆う高さがあること。靴底全体の80%以上が、4mm以上の深さのある溝刻みを有したピプラムか同等のソールで覆われていること。またアイゼンが付く形状でなければならない。
 ■ ストック ... ボールの直径が25mm以下、非金属のバスケットのもの。アルペン用、クロスカントリー用どちらでも良い。
 ■ 服装 ... 少なくとも上半身は3レイヤー、下半身は2レイヤー用意すること。すべて長袖、長ズボンでなければならない。どちらも一枚は、通気性があり、防水、防風であること。
 ■ 雪崩ビーコン ... 標準の457kHz規格であること。選手は競技中、送信モードにして、腰の下に体に密着させて装着すること。選手は、レース時にビーコンが正常に働くようにしておく義務がある。万一、レース中にビーコンが機能しない状態になったら、選手は最寄りのチェックポイントに申告しなければならない。申告を受けた主催者は、直ちに当該選手の安全を確保しなければならない。
 ■ スノップ ... 最低20cmx20cmの大きさのもの。メーカーからシャベルとして製造され販売されているものでなければならない。
 ■ サバイバルシート ... レスキューシート、サバイバルブランケットと言われるもの。市販のものを改造してはならない。
 ■ ザック ... 最低20Lの大きさのもの。
 ■ ヘルメット ... EN12492 (UIAA106)規格に適合したもの。一般の登山用ヘルメットであれば良い。滑降時と主催者が指定する区間 (リッジ、ルンゼなど) では、必ず正しく着用しなければならない。今大会では登山用以外でも認める準備があるので、主催者に確認のこと。
 ■ アイゼン ... 最低10本の爪があること。選手のブーツに合うよう調整してあるもの。ただし、主催者の判断によって使用しない場合もある。
 ■ シール ... スキーキャップ、またはバンダイジ ■ 手袋 ■ サングラス
 ※ ISMC ... 国際山岳スキー競技連盟 (International Ski Mountaineering Council)
 ※ UIAA ... 国際山岳連盟 (Union Internationale des Association d'Alpinisme)

● 優秀選手は2006年3月開催の第3回山岳スキー競技世界選手権大会日本代表選手に推薦される予定です。

第一回 山岳スキー競技日本選手権大会・競技研究会参加申込み書 (FAX用)

● 以下希望箇所に○印を付けてください。

参加希望	4月16日	午前: 講習	午後: コース設定実習	17日	午前: 競技	午後: 今後に向けて
宿泊希望	4月15日		16日		17日	

名前	所属	電話 ()
住所 (〒)		
FAX ()	携帯	e-mail

● e-mail アドレスを記入頂くとお知らせ等はメールリストでお送りします。

送信先 FAX: 03-3481-2395 日本山岳協会 TEL: 03-3481-2396

東京都渋谷区神南1-1岸記念体育館 4F